

『シクラメンのかほり』から

◆この歌は、私共の年代にとって記憶の奥にとどまる一曲である。同時に「かほり」と旧仮名遣いのタイトルは妙に新鮮味を帯びており、あえて「かほり」と発音したものだ。もちろん「香り」のことであるが、実はシクラメンは品種改良の過程で香りを失った花。美しい花弁を得る代償としてもいかなるものか。この曲のヒットを機に、香りの再生プロジェクトのスタートによって復活への道ができたのは幸いにしても、何か失っていく環境と文明の関係をみる思いである。

◆「花に囲まれてのお仕事いいですね」の声に新規就農の若夫婦・小林さんは苦笑いをする。「花を育てる秘訣は」と問いかけてみると「秘訣なんてありません」と下を向く。恐らくシクラメン栽培農家として新しい仕事に挑み、今、確かな手応えを感じ始めているからに違いない。微笑みの表情は二人とも素晴らしい。また訪れたくなる魅力を感じるのは、花と向き合うひたむきな生き方が和みとなって湧溢しているからだ。花は人をも育ててくれるのか。(市長)

華やかな色と香り
石狩のシクラメン

本格的な冬の到来を間近に感じる今日このごろ。石狩で4組目の新規就農者として平成14年より花卉栽培を行っている小林花園では、冬の花として知られるシクラメンの出荷に追われています。

シクラメンは11月中旬～12月中旬に種をまき、翌年の12月に花を咲かせる、栽培期間がとても長い花。「栽培は1年の積み重ねです。しっかり調整していないと上手には作れません。その難しさがやりがいにもつながっています」と小林孝和さん。

種類も豊富で花の色や大きさ、花弁の数、香りの強さなど、100を越える種類があるといいます。「選ぶだけで大変ですが、基本的には自分たちの良いと思う30種類ほどのシクラメンを栽培しています。最近はオレンジや黄色の花を咲かせるものや、花弁がフリル状になっているタイプが人気ですね」

全道はもちろん、全国にも出荷されている小林花園のシクラメン。その鉢は、何年も花を咲かせてくれると評判です。

「石狩は大規模な商圏である札幌近郊にあり、市場も近い。鮮度のよいまま届けられるのはとても大きなメリットなんです」



◀高岡にある小林花園ではビニールハウス4棟でシクラメンを栽培。「今年も例年通り11月初旬から花が咲き、発育は順調です」と小林さん。



▼サラリーマンから転身した小林さんは「家内と365日一緒に働くことなんて今までなかったので新鮮です」と笑います。



▶石狩では、12月8日(土)に行われる「第5回石狩こだわり師走市」(17ページ参照)でも購入できます。今年は通常5枚の花弁が10枚ある種類も出品予定。ぜひこの機会に足を運んでみませんか(写真は昨年の様子)。



広告